

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891600039		
法人名	特定非営利活動法人 淡路島シャロームの会		
事業所名	グループホーム くるま花木		
所在地	兵庫県淡路市久留麻236		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	平成25年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成25年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.日々の暮らしでは、とくに利用者1人1人の 安心と尊厳を大切に支援に努めている。</p> <p>2.日々の暮らしの中で、音楽療法や園芸療法等、利用者個々の思いを活かした支援を心がけている。</p> <p>3.散歩や買い物などの日常的な外出、家族や知人、地域ボランティアの訪問などを通じて、利用者を地域社会の一員として支援することを心がけている。</p> <p>4.ホームの中庭には季節の花が、背後の田畑には米や野菜が植えられ、四季を通じてホームの生活に彩を添えている。</p> <p>5.食事は、隣接する田畑でとれた新鮮な食材を使って利用者とともに調理し、職員も一緒に食事をとるオープンで家庭的な雰囲気づくりを心がけている。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・法人の使命を壁に掲げ、毎朝「今日の言葉」を職員が朗読し、「感謝」についての一言コメントを話してから全員で理念を唱和している。</p> <p>・敷地内に緑の稲田が広がり、果樹園や野菜畑が続いている。経営者家族と利用者が毎日のように畑の野菜を収穫して一緒に食事作りを楽しみ、食後は利用者がごく普通に席を立ち片付ける。また、足元に不安がある100歳の方がしっかり歯ブラシを掴み歯を磨いている様子からもこれまでの慣れ親しんだ生活が継続されていることが感じられる。</p> <p>・一人ひとりの思いや希望、意向は独自のアセスメント表や介護計画書に、毎日の体調や様子の変化は「転記表」に記録して、グラフや記号も使って一目瞭然と全職員が把握できるようにしている。</p> <p>・園芸療法を取り入れ、楽しんでいる情景は、NHKの撮影取材も受けた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎日、朝のミーティングのときに、事業所の使命と理念について唱和し共有を図っている。 ・利用者が地域の一員として、安心と尊厳を持って暮らせるよう理念を実践している。	事業所の理念を引継ぎ時に唱和している。法人の使命にある「感謝」の言葉を大切に、介護の仕事をさせて頂いていることにも感謝している。そして、「今日も一日お元気で365日」という本から「今日の言葉」を職員が輪番で朗読し、思いの共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者は散歩や買い物、近くの作業所の出張喫茶に出かけ、地域の人と交流する機会づくりを行っている。 ・事業所は町内会に加入し、地域の情報をもらったり、地域の行事に参加できるよう支援している。	サンリッチ主催の旧役場での月2回の出張喫茶には全員が参加する。夏祭りの準備では地元の要請で、利用者の川柳等が書かれた紙製の灯籠を参道に配置した。開設7周年のこの9月には「花水木通信」記念号(4000部)を地域に配布する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入居希望の家族からの相談に乗るなどして、認知症ケアの実践経験を地域に活かせるようにしている。 ・人材育成への貢献として、実習生や研修生を毎年、積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議では、事業所の活動状況や取り組み、課題などについて報告するとともに、会議のメンバーから意見や要望をもらい、それを運営に活かすようにしている。 ・評価の結果と課題について報告し、その後の解決に向けた取り組みについて意見をもらうようにしている。	運営推進会議には、入居者、家族、地域住民のそれぞれの代表、市役所、地域包括支援センターの各職員等が参加している。会議では、家族会の立上げ、看取りや事業所の運営などについて有益な意見交換が行なえた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議等を通じて事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えるとともに、運営上の疑問点や利用者の権利擁護、困難事例等についても市に相談し、助言をいただくようにしている。	市担当課、地域包括支援センターからは、土曜日開催の運営推進会議に毎回参加がある。昨年の目標設定の一つであった通院支援については市の担当者と練り上げた「お知らせ」を利用者に配布した。本年1月の実地指導では文書での指導が皆無であった。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・代表者および職員は、身体拘束の弊害を理解し、見守りや連携を通じて、鍵をかけない暮らしに努めるなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	玄関の扉は施錠していない。大きな円形ミラーを台所に設置して、職員が玄関扉の開閉を見れるように工夫した。徘徊癖がある方には、一緒に外を一周りしたり、夜半、大声を出す帰宅願望の方に、「血圧を測りましょう」と言ってベッドに導いたりして、工夫した対応を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者施設における虐待の報道を題材に職員と話し合うなどして、職員による虐待の防止に努めている。特に、言葉や態度等による心理的虐待が見過ごされることがないように気をつけている。	適時更新したマニュアルや報道によるケースを材料として年1回は研修を行っている。言葉や態度による心理的虐待にも気を使っている。研修は、守秘義務、倫理、虐待防止・身体拘束ゼロ、緊急対応、災害訓練等とともに年間行事予定表に組み入れている。	勤務交替時の管理者への業務報告を各職員との意思疎通の場としているが、定期的に全職員に個人面談し、ストレスの有無、その軽減など精神衛生面からのアプローチをさらに進められてはいかがでしょうか。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については、利用している方もおられ、話し合う機会がある。今後、研修では、入居者の利用例をケーススタディとして取り上げ、成年後見制度を活用できるよう支援していきたい。	すでに数名の入居者がこの制度を利用しているが、すべての職員がこの制度について深く理解しているわけではないので、入居者の実際例をもとに、研修する必要性を感じている。	社会福祉協議会の支援を得て、職員に運営推進会議のメンバーも加えた研修を実施してはどうでしょうか。これを核として地域住民との絆や連携が新たに生まれることも期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、重要事項について説明し、同意を得るようにしている。 ・特に、入院や看取りなど事業所の対応可能な範囲について説明し、納得してもらった上で契約を結ぶようにしている。	契約時には、契約書や重要事項についてよく説明し、同意を得るようにしている。最近特に、看取り希望の有無を確認し、そのための条件等を明確にして説明するよう留意している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者とは、普段触れ合う中で意見や要望等を把握するよう心がけている。 ・家族とは来訪時や電話、家族会等で話し合う機会を持ち、出された意見・要望を運営に反映させるよう努めている。	年2回は遠足等の行事も兼ねた家族会を主催している。この6月には18人の利用者のうち12家族、18名の参加があり、関心の高い看取りをテーマに、家族から自発的に話題が出て話し合った。参加できなかった家族には、後日、来所時にお話している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所の運営や重要な決定に関しては、ミーティングや会議、各委員会活動等を通して現場の職員の意見や提案を聴き、運営等に活かしていくようにしている。	各種の委員会、広報、防災、衛生、感染症、拘束、サービス向上等の活動を通じて全職員が自由に意見を出し合えるようにしている。毎日の早出、遅出の交代引継ぎ時にも10分ぐらいは業務に関する課題を話しあうことにしている。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・普段から個々の職員の悩みやストレスに注意し、勤務中に一息つける休憩室を設けたり、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。 ・代表者も朝のミーティングや食事に参加し、職員の日ごろの努力や勤務状況等を把握するとともに、各自が向上心をもって働けるように努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新任職員に対しては、研修期間中はマンツーマンのOJT体制をとり、働きながら仕事を学べるよう指導している。 ・職員の立場や力量に応じて、ステップアップ研修や資格取得の機会を設け、現場で活かしてもらうようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設での実習や相互研修、実習生の受け入れ等、他施設との交流を通して、ともに学ぶ機会を設けている。 ・グループホーム協会や連絡協議会に加盟し、同業者との交流や連携を図るようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面談では、生活状態を把握し、本人の求めていることや不安を理解するようにしている。 ・利用時には、本人の思いや気持ちを受け止め、安心して生活できる環境作りに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接の際、家族の立場に立って、困っていることや不安なことを伺い、事業所としてどのような支援ができるかを事前に話し合い、家族との関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、本人や家族の思い、状況を見極め、早急な支援が必要な場合には、可能な限り柔軟な対応を行い、また場合によっては他のサービス機関につなげるなどの対応をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の思いに寄り添いながら、安心と尊厳を持った暮らしを支えることを基本理念に、利用者支援する側に置かず、ともに暮らす家族の一員として接するように心がけている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の希望や思い、また家族の要望を受け止めながら、本人の暮らしや様子等についての報告や相談を細かく行い、一緒に本人を支えるための協力関係を築けるようにしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知り合いの訪問、近隣への散歩、買い物など、地域とのつながりを継続できるよう支援している。 ・友人や家族への手紙等を職員が協力して出すように支援している。	ボランティアの指導で絵手紙を作り、多くの作品が壁に掲示されている。暑中見舞いは、友人、知人、家族に送付している。親族のほか、近隣の友人の訪問もあり、玄関先にはいつでも利用できるようテーブルと椅子を配置したコーナーが設けられている。馴染みの理美容室が定期的に訪れる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・毎日のお茶や食事の時間を職員と共に行ったり、調理や食器の後片付けなどの作業分担を通して、利用者同士の支え合う力を引き出し、関係が円滑になるよう働きかけている。 ・レクや散歩、談話など、みんなで楽しく過ごせる時間を持つなどして、一人ひとりが孤立せずに関わり合えるように、職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も、ご家族に連絡をとったりして、その後の様子を伺うようにしている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人や家族から生活歴を聞き取り、本人のできること、得意なことを探し、それを中心に思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、言葉端や表情などから汲み取っている。	独自のアセスメント様式を作成し、本人や家族、知人などから情報を得ている。本人がどこで、どのような暮らしをしたいか、これまでの生活や支えられてきた人たちを把握し、職員間で共有している。言葉でない思いも日々の行動や表情から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の面談時に自宅等を訪問し、本人やご家族からこれまでの生活歴を細かく聴き、基本情報として整理し、職員で共有しながら日々の支援に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの日々の暮らしぶりを観察し、本人の状態を総合的に把握できるように努めている。体調の変化等があれば、看護師・主治医とも相談し、対応するようにしている。 ・日々の生活から、個々のできることを見極め、普段の生活に活かすようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人の得意なことを中心に、家族の意向も踏まえ、本人がどのように暮らしたいか、何がしたいかを意識して、介護計画を作成している。 ・介護計画に沿った支援の実践状況については、結果を転記表に毎日記載し、モニタリングに活かせるようにしている。	介護計画やモニタリングは介護支援専門員、担当介護職員、管理者、本人や家族、医療関係者などで3ヶ月毎に検討している。日常の行動や様子、バイタルなどの細やかな変化をグラフも使って「転記表」に記入し、本人主体の現状に即した検討や介護を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日中活動、支援の内容、バイタルチェック等、その日の状態や気づきなどを個別ファイル等に記録し、転記表も活用しながら、支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援はご家族の協力も得ながら、柔軟に対応している。 ・本人の意向に配慮しながら、買い物や外出の支援等を行っている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の民生委員とは、運営推進会議のメンバーとして、また近隣住民の代表として、協力関係を築いている。 ・園芸ボランティアをはじめ、地域のボランティアが定期的に訪れ、書道やハンドマッサージ、絵手紙等を楽しむ機会をもっている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族が希望するかかりつけ医の適切な医療を受けられるよう、通院や定期および随時の往診をしてもらっている。 ・状況変化毎の医療情報は、全職員が共有に努めている。 ・通院支援の範囲等については、家族会で話し合い、事業所と家族の分担を決めている。	かかりつけ医への通院介助のほか、2つの医院に週に1回訪問診療をお願いしている。通院支援については、運営推進会議でも議題に取り上げ、家族会とも話し合い、市外や淡路島から離れる場合は家族が介助することなどの取り決めを行った。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。 ・体調の変化に気づいた場合には、ただちに看護師に連絡し、適切な医療につなげている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、本人に関する必要な情報を医療機関に提供するとともに、家族や医療機関と密接に連絡を取りながら、本人の速やかな退院に向けた支援を心がけている。	入院時は情報提供を行い、週に1回はお見舞いに行き、早期退院に向けて医療関係者とも話し合っている。骨折などで入院されても早く退院して、以前の生活に戻り元気になられた方も数人いる。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化および看取り指針を整備し、入居時に本人や家族に説明している。 ・ターミナルケアについては、本人や家族の意向を汲み取りながら、家族や医療機関と密接な連携を図りつつ、チームで支援する取り組みを行っている。	入居時に「重度化および看取り介護についての同意書」を示し説明している。重度になった場合、本人や家族に延命治療、疼痛緩和の希望の有無などを確認し、「意志表明書」に署名捺印して頂いている。医療や訪問看護の協力を得て、二人の看取りを行うことができた。	本人・家族の状況変化に合わせ、段階ごとに本人・家族、医療関係者、職員などが方針の共有化を図ることが大切です。研修や話し合いを重ね、さらにチームとしての成長を期待します。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防署の協力を得て、応急手当や心肺蘇生術の研修を定期的実施し、緊急時に職員が対応できるようにしている。 ・緊急時対応については、「事故緊急時対応マニュアル」を整備し、周知徹底を図っている。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方、消火設備の点検などを定期的実施している。 ・消防署および近隣住民への自動火災通報体制を整備し、地域との協力体制を整備している。	地域住民3名、職員4名に依頼し自動火災通報体制を作っている。年に2回消防署の協力で消火・避難訓練や緊急対応の実地体験講習も受けている。津波時は近くの西念寺が避難先として受け入れてくれる。備蓄はまだ準備できていない。	事業所は海から近く、津波の直接被害や海岸道路の寸断も想定されず。運営推進会議のメンバーへの訓練参加の呼びかけ、水や調理が不要な食品、衛生用品などの備蓄も必要ではないでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者との会話は敬語を基本としているが、一人ひとりの生活歴や状況に応じて地元の言葉を使うなど、声かけに配慮している。 ・介助が必要な時も、本人の気持ちを大切に、目立たずさりげない対応を心がけている。	一人ひとりのその人らしい尊厳ある姿を大切にすることと、職員が上に立った対応をしないことを常にミーティングで話し合っている。入浴時や排泄時にも目立たないよう、さりげない言葉掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の生活のさまざまな場面において、利用者が意思表示し、自分で決定できるような声かけを行ったり、意思表示ができない場合でも、表情や反応を見ながらできるだけ自分で決める場面をつくり、一人ひとりが納得しながら暮らせるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の都合に利用者の生活を合わせるのではなく、その日の体調や様子をみながら、本人のペースに合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・朝の着替えは、自分の選んだ好みの服を着てもらえるように、見守りや支援を行っている。 ・理美容院では、本人の希望に合わせたカットをしてもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は、隣接する田畑でとれた食材を使った好みのメニューを取り入れている。 ・利用者と職員と一緒に調理から食事、後片付けまで楽しく関わられる家庭的な雰囲気づくりを心がけている。	建物の周りには野菜畑や稲田、果樹園があり、毎日のように収穫した野菜と一緒に調理して楽しんでいる。また片づけや洗い物も手伝っている。誕生日にはその人の好きなメニューでお祝いしている。訪問時のおやつは畑で取れた甘い西瓜が出された。	

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分の摂取状況を毎日記録し、一人ひとりの状態を把握できるようにしている。 ・本人の状況や好みに合わせて食事の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアについては、利用者に合わせて声かけや一部介助の支援を行い、口腔内の清潔保持や嚥下障害による肺炎予防に努めている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・利用者個々の排泄パターン、習慣を把握し、声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援している。 ・利用者の状況によっては、リハビリパンツやパット類を本人に合わせて使用している。	トイレでの排泄を大切に、一人ひとりの排泄を記録して、本人の生活リズムに添った支援をしている。自尊心や不安に配慮し、様子を見ながら声をかけている。また夜間も失敗がないようにそっとトイレにお連れしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・自然排便を促すために食事には食物繊維の多い物の摂取を心がけている。 ・毎日のラジオ体操や散歩、水分補給の徹底を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は2日に1回のペースで、午後1時半から4時までを入浴時間とし、デイサービスの日は、午前10時から入浴時間を設けている。 ・入浴や入浴時間に関しては、本人の意思を優先した声かけを心がけ、ゆっくりと入浴を楽しんでもらえるようにしている。	以前からの午後入浴に加えて、週2回は午前中も行い本人の希望に添うようにしている。入浴は本人と職員の1対1のお付き合いの場と時間であり、ゆっくりと昔の話をお聴きしたり、また本音もお聴きできる「リラックスタイム」になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室以外にリビングや座敷、ソファ等で心地よい休憩が取れるように配慮している。 ・個々の生活リズムに合わせて昼寝したり、心地よく眠りにつけるように散歩や運動、日光浴など、日中の活動を促すように支援している。		

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に処方されている薬に関しては、薬局からの写真付薬説明書を綴じていき、職員全員がいつでも確認できるようにしている。また、服薬の変更があった場合は職員ノートに記入し、申し送り時に確認できるようにしている。 ・誤薬防止のため、与薬時は薬の袋に記されている日付、名前、服薬時を読み上げて確認し、最後まで服用を見届けるようにしている。 		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や食器洗い、庭の水やり、掃除など、一人ひとりの力を活かして、張りのある暮らしが送れるよう支援している。 ・生け花、ピアノ演奏、歌を歌うなど、今までの生活で楽しみとされていたことは、継続できるようにしている。 		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭に出て散策したり、近くのお寺まで散歩することを習慣にしている。 ・スーパーへの買い物、地域の作業所の出張喫茶などの外出にも可能なかぎり対応するようにしている。 	<p>毎朝庭に出て外気にふれ、元気な方は近くのお寺まで散歩している。毎週家族とお墓参りや、以前住んでいた家に帰ったりする人もいる。全員で園芸学校のレストランに行き、家族と一緒に楽しい一日を過ごしたこともある。</p>	<p>一人ひとりのやりたいこと、行きたい所などを把握して、少しでも寄り添える一人ひとりの外出プランを立て、実行することが望まれます。</p>
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族より毎月、一定額のお金を預かり、事業所で管理して、買い物や喫茶、理美容院等の支払い時に手渡している。 		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友人へ自由に電話できるように支援している。入居者自らが作成した絵手紙の投函等の要望にも、職員が対応している。 		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム中庭には季節の花を、背後の田畑には米や野菜を植え、季節感を味わえるような環境作りをしている。 ・床はクッション性のフローリングを使用し、安全性に配慮している。 ・壁は珪藻土入りの壁紙を使用し、湿気を調整したり、臭気を吸収する工夫をしている。 	<p>共用のリビングには季節の花が飾られ、窓からは緑の田畑や果樹が眺められる。みんなで作った作品やお習字もあり、入居者の弾くピアノに合わせて、自然に歌声も聞こえていた。事務所から2つのユニットが見渡せ、職員に見守られて、ゆったりと過ごしている。</p>	

自己評価および第三者評価結果

グループホームくるま花水木

評価機関：コミュニティ・サポートセンター神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングではゆったりとした椅子やソファで、また座敷では掘り炬燵を囲んで気の合う利用者同士、ゆっくり過ごせるよう工夫している。 ・一人になりたいときは、各自の居室でゆったりと過ごしてもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの家具や写真などの思い出の品、仏壇などの大切なものを置き、本人が心地よく過ごせるように工夫している。	使い慣れた布団や枕、ベッド、たんすなどが置かれ、家族の写真が飾られている。エアコンも各室にあり、温度調節は職員が行っている。季節ごとに家族が衣類の取替に訪れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・床はクッション性のフローリングを使用、生活空間の必要な場所に手すりを設置し、洗面台や蛇口の位置も使いやすいように工夫している。 ・各部屋の前に名札や写真を飾ったり、お手洗いに目印をつけたりして、混乱が起こらないようにしている。 ・庭にベンチを置き、日向ぼっこをしながらお茶を飲んだり、花や野菜の手入れ、収穫など、園芸を楽しめる環境づくりをしている。		